

令和7年度 体力向上における各校の取組みと成果(小学校)

福井市

教育委員会

No	学校名		項目	具体的な取組み	成果
1	木田	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	なわとびをする習慣をつけるために、体育館になわとびゾーンを設け、なわとびができるようにした。また、なわとび記録カードや委員会で作成したビンゴを使っていろいろな技に挑戦できるようにした。	年間を通してなわとびゾーンを設けたことで、体づくり運動の学習以外でもなわとびや大なわに取り組む児童が見られた。また、ジャンプボードを設置したことで大技に挑戦する児童も見られた。
2	豊	小学校	本校の体力向上の取組みについて	「体力向上コーナー」を学校内に設置し、垂直跳び等を中休みに児童が自主的に行えるようにし、立ち幅跳びの記録の向上を目指した。	体力テストの立ち幅跳びでは、4項目で県平均を上回ることができた。
3	足羽	小学校	その他	体力テストの結果の掲示や、マラソン大会・なわ跳び大会の記録賞配付により、運動や体力に関する関心を高め、目標に向けて熱心に取り組む態度を育てる。	記録の可視化により、自分の成長が客観的に把握できるようになり、目標達成に向けた粘り強さが出た。また、全員への記録賞配付が、運動が苦手な児童も含め、達成感や自己肯定感を得るきっかけとなった。
4	東安居	小学校	本校の体力向上の取組みについて	授業の中に3分程度の体力作りメニューを行った。(柔軟運動やグーパー体操など)	体力テストの握力では、男女ともに県や市の平均より良い学年が多かった。
5	湊	小学校	本校の体力向上の取組について	湊っ子ランランチャレンジ	ペア学年で取り組むことで仲間を応援する姿が多く見られ、共に高め合おうとする態度の育成を図ることができた。
6	春山	小学校	本校の体力向上の取組みについて	上半身や下半身の筋力を高める運動を朝の時間に週に2回程度年間をして継続して行った。	朝のトレーニングを年間通して全校で取り組んだことで、全身の筋力の維持向上につながり、上体起こし・反復横跳びの項目で多くの学年が県平均を2~3ポイント上回った。

7	順化	小学校	本校の体力向上の取組みについて	全校で、3分間走(低学年は2分間走)を準備運動に取り入れ、運動量を確保した。	昨年度5年生の体力テストの種目「シャトルラン」において、男子の平均値は県平均より-12.6ポイントだったが、今年度6年生では県平均より-6.1ポイントに上昇した。
8	宝永	小学校	本校の体力向上の取組みについて	運動領域にあった準備運動や、補強運動を取り入れた。	5年生では、昨年度と記録を比較し、男子の握力では、平均2kg、女子では平均3kgの向上が見られた。50m走では、男女とも平均0.3秒の向上が見られ、昨年度から本年度にかけて継続した取組みの成果が出た。
9	松本	小学校	本校の体力向上の取組みについて	持久力を高める運動を持続的に行い、シャトルラン、ボール投げの力を更に伸ばす。心地よく走れるリズムを見つけながら走る練習をこころがけた。	6年生のシャトルランの記録が全国平均を超え、とくに6年生女子は13ポイント以上高かった。ソフトボール投げは6年生と4年生が全国平均を超えた。
10	日之出	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	運動場の一部を利用して竹馬や一輪車を体験できるスペースを活用して、遊び感覚で運動に親しめるようにした。	休み時間には体育館でバスケットボールやドッジボールを使ってボール遊びを楽しめた。外で遊べる日には竹馬や一輪車で遊ぶ姿が増えた。体を動かせる機会が多く、遊びの中で運動に親しめた。
11	旭	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	運動の楽しさを感じさせるために、記録カードを作成し、達成したら色を塗ったり、上位者には学年で賞状を準備し、児童のやる気や達成感を高めた。	年度末に全校児童を対象にしたアンケートでは、「運動することに興味をもち、すすんで体を動かしている」と91%の児童が肯定的に答えた。
12	和田	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	外遊びをしたいと思う児童が増えるよう、給食時に校内放送で外遊びを紹介する動画を流した。	低・中学年を中心に、今まで外遊びに行っていなかった児童も外に出て遊ぶ姿が見られた。

13	円山	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	全校児童がスポーツに対して興味関心を高められるように、スポーツ委員会が主体となってイベントを積極的に企画する。	スポーツ委員会の企画として、「なわとびランキング」を行った。休み時間にトレーニングルームを活用して、技とびの記録会を行った。日替わりでランキング掲示が変動していく形をとったため、児童もなわとびにより興味・関心をもって取り組むことができていた。
14	啓蒙	小学校	本校の体力向上の取組みについて	①マラソントイムの実施 みんなで一緒に外で運動する機会を設けるために、5～6月(春)と10～11月(秋)の木曜と金曜の業間に、学年毎に分かれて音楽を鳴らし、5分間走を実施した。 ②長距離記録会の実施 低学年は600m、中学年は800m、高学年は1000mのタイム測定を体育の時間に行い、上位者の記録を児童玄関に掲載した。	①3年生(秋)では2年生(秋)時に比べ、周回数が平均で0.5周ほど増えていた。他の学年でも終了の音楽が鳴り終わるまで走り続ける子が増えた。 ②ランキングを随時更新したことによって、モチベーションが上がっていた。今年度の記録を基に、来年度各段階に応じて、指標となる記録を示すことができるようにしたい。
15	西藤島	小学校	本校の体力向上の取組みについて	準備運動でのゲーム性を取り入れた運動	令和7年度体力・運動能力、運動習慣等調査では、反復横跳びの結果が6項目中5項目(4年男女・5年男女・6年男女の6項目)全国の平均値を上回った。
16	社北	小学校	本校の体力向上の取組みについて	4～6学年はプール学習を福井県県営水泳場で実施し、潜る・浮く・泳ぐ運動を充実させた。個に応じた指導の充実を図った。	県営体育館でプール学習を行うことで、天候に左右されず、計画的に学習を行うことができた。また、校内のプールでは行うことができない泳法等も行え、児童は意欲的に学習に取り組むことができ、意欲、技術の向上が見られた。
17	社南	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	体育委員会主催の企画「大縄チャレンジ」を開催し、4日間かけて、全校で大縄を発表した。	全学級が、大休みや昼休みに自主的に大縄の練習に取り組む、児童の運動する時間が増えたほか、「大縄が楽しくなった」と言う児童が増えた。

18	安居	小学校	本校の体力向上の取組みについて	系統性を意識した授業づくり。めあてを意識して授業に取り組み、単元を通して技能の習得や意識することについて理解を図った。リレーの学習では、学年に応じて、バトンパスのポイントを板書したり、手本を見せることで理解につながるようにした。	体育でめあてを意識して授業に取り組んだ児童 92%
19	中藤	小学校	本校の体力向上の取組みについて	はぴりゅうスポーツパークの実施 2月後半～3月にかけて、「はぴりゅうスポーツ広場」を活用した運動に取り組めるスペースを設け、児童が大休みや昼休みに進んで運動に取り組める場を設定した。	休み時間などは、なわとび以外の運動に触れ、馬跳びや体じゃんけんなど、手軽な運動に取り組むことができた。児童同士で反復横跳びの回数を数えたり、時間を計測したりするなど、自主的に取り組む姿が見られた。
20	大安寺	小学校	本校の体力向上の取組みについて	時間走や時間跳びを継続して行い、持久力の向上を図る。	20mシャトルランの記録が向上した。4～6年生の男女それぞれが、市平均・県平均を概ね10回程程度上回る結果となった。
21	河合	小学校	その他	縄跳び大会に向けて、学習カードを活用して、友達と一緒に技の練習を行った。回数を数え合ったり、協力して練習に取り組むよう呼びかける。	学習カードを使うことで、できた技の種類や回数が明確になり、身近な目標を立てながら意欲的に活動することができた。
22	麻生津	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	マラソン大会に合わせて、持久力向上を目指し、「体力アップキャンペーン」と称し、校庭を7分間走り続けることを約3週間行った。全校児童にマラソンがんばりカードを配付し、目標に向けて粘り強く取り組もうとする児童の育成を目指した。また、なかなか外遊びができない冬季には、委員会で作成したペア跳びを含めた縄跳びの紹介動画を放送し、縄跳び運動の充実を図った。	各学年が「体力アップキャンペーン」に取り組んだことで、体力が付き、マラソン大会ではほぼすべての児童が完走し、自己記録を更新することができた。また、縄跳び紹介動画を放送した後には、ジャンピングボードを利用してまだできない跳び方に挑戦する姿や、ペアでいろいろな跳び方に挑戦する姿が見られ、積極的に縄跳びに取り組んでいる様子がうかがえた。

23	国見	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	ICTの活用に努めた。 ・体育科の学習カードを全てアプリ化した。アプリは学校HPで公開し、児童が家庭からもアプリを使用して運動ができるように設定した。	授業後のアンケートでは、体育が「とても楽しい」と回答する数が授業前と比べ「2倍」に増加した。
24	岡保	小学校	本校の体力向上の取組みについて	体育の授業とマラソン大会や器械運動発表会、なわとび大会などの行事を関連させた。	行事に向けて、体育の授業で体力や技術を向上させるために、練習に熱心に取り組む姿が見られた。
25	東藤島	小学校	本校の体力向上の取組みについて	ICTを活用した主体的・対話的な学習の充実	陸上運動や器械運動ではタブレットを活用し、自分の動きを確認したりお手本となる動画と比べたりして、友達と話し合いながら改善につなげることができた。
26	殿下	小学校	その他	機会を見つけて他校や地域の方とのスポーツ交流を行った。	特に器械運動の交流では、他校の児童の技術や取り組む姿勢に刺激を受け、学校へ戻ってから一段と熱心に練習に取り組むようになり技能の向上につながった。
27	鶉	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	長縄全日本選手権へ参加をしたり、校内でなわとびの選手権を行ったりして、縄跳びに習慣的に取り組む機会を設け、体力の向上を図った。	児童がタブレットで動画を撮影して、提出する方式を取ったので、いつでも挑戦することができ、習慣的に取り組むことができていた。
28	本郷	小学校	本校の体力向上の取組みについて	週に一回「いきいきタイム」という時間を設けて、全校で業間運動を行った。	6年生が考える体力作りの遊びを行った。みんな楽しみながら、運動に取り組むことができた。
29	棗	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	冬期の業間運動として、週に1回、縦割り班ごとに大縄の8の字跳びを行った。	異学年との交流が図れたとともに、ほかの休み時間などにも親しい仲間が集まって大縄に取り組む姿が見られた。
30	鷹巣	小学校	本校の体力向上の取組みについて	地域・学校の特徴をいかした行事の実践(砂浜マラソン)	海に近い環境を活かした砂浜マラソンで体力の向上を図った。

31	長橋	小学校	本校の体力向上の取組みについて	持久走や器械運動、なわとびなどの学習カードを使用し、個人の能力に合った目標記録を設定して活動に取り組んだ。	学習カードの作成の際、モールステップで目標を設定し、運動が苦手な児童も達成感を味わうことができるよう工夫した。期間限定で大休みの時間に持久走の練習に取り組んだ。
32	森田	小学校	本校の体力向上の取組みについて	全校児童数が多いため、グラウンドや体育館の割り当て、運動用具の設置などを計画的に行い、運動量の確保を図った。	各学年、年間指導計画をもとに計画を立て、設備や用具を効果的に活用し、運動量の確保を行えた。
33	明新	小学校	本校の体力向上の取組みについて	マラソンカード、なわとびカードの作成	自分で目標を設定し、意欲的に運動に取り組めるようにした。目標に向かって練習を繰り返す様子が見られ、目標達成時にはシールなどで評価をした。視覚的に分かるようにすることで、さらに意欲をもって取り組むことができていた。
34	酒生	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	休み時間において鬼ごっこなどの走り回る遊びへの自主的な参加	学年を超えて互いに関わり合い、楽しむ姿が見られた。
35	一乗	小学校	本校の体力向上の取組みについて	全校児童での体育の実施	競い合うことや、集団で行う種目実施の困難さを解消するため、また複数指導者の確保のために、TTでの全校体育を行っている。安全面に配慮したほか、技能面で2グループに分けて発達段階にも配慮しながら指導することもできた。
36	上文殊	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	業間活動において異学年で運動に親しむ取組みを行った。	縦割り班で短なわとびや8の字とびに取り組んだり、委員会主体で企画した全校レクリエーションを実施したりしたことで、運動を楽しみながら行う様子が多く見られた。

37	六条	小学校	本校の体力向上の取組みについて	体育的行事の前1ヶ月ほど、大休みに全校での取り組みを行った。(マラソン大会前の全校マラソン、なわとび大会前の縦割り班別大なわとび練習)	マラソン大会に向け、体育では、十分な練習が確保できないため、大休みにマラソンをすることで、児童の体力向上につながった。大なわとびについては、縦割り班で協力して練習し、練習することにとぶ回数が増え、児童の自信にもつながった。
38	文殊	小学校	本校の体力向上の取組みについて	なわとび運動で、ペア学年をつくり跳び方を教え合う時間を設けた。	「高学年のような難しい技に挑戦したい。」という気持ちをもつきっかけになり、より難しい技に挑戦する児童が増えた。また、低学年に教えるという活動を通して、高学年は自己有用感を感じることができた。
39	東郷	小学校	児童生徒の運動習慣の育成について	週に1時間、晴天時は5分間走を行い、各自が何周走るか目標を設定しながら取り組んだ。	全国体力・運動能力・運動習慣等調査で男子は全種目、女子は8種目中6種目で全国平均を上回った。20mシャトルランでは男女共に福井県平均を上回り持久力が向上した。マラソン大会では、ほとんどの児童が完走することができた。
40	日新	小学校	本校の体力向上の取組みについて	ICT機器を体育館でも常時活用できるよう、環境を整備した。	器械運動や、表現運動に取り組む際、練習方法のイメージを持たせ、自分の動きを確認しながら主体的に活動できるようになった。
41	清明	小学校	その他	学校オリジナルの曲に合わせて準備運動を行う体操を、委員会を中心に考えた。これまでの準備運動の内容を全て入れ、ダンスの要素も取り入れた。また、それを周知するためのビンゴ企画も行い、校内体育大会でも使用した。	リズムよく体操し、リズムダンスの基礎をこなし、児童が増えてきた。企画では、ビンゴを目指して、たくさんの学年が流れを意識して体操の練習をしていた。
42	社西	小学校	本校の体力向上の取組みについて	準備運動の中で、学年に応じて強度や回数を変えてトレーニングを行う。	順位運動で多様な動きにつながる運動をしたことで、特に体力テストの瞬発系の項目で、県平均を上回る数値を記録した。

43	下字坂	小学校	本校の体力向上の取組みについて	全校での業間運動「ハッスルタイム」の実施	業間運動には全校が同時に走るため、どの児童も一生懸命参加できた。特に低学年は高学年と一緒に走る中、5分間諦めずに走る姿がよく見られ、4月当初よりも長い時間走ることができるようになった。
44	羽生	小学校	本校の体力向上の取組みについて	ICT機器を活用した授業作り	3,4年生ではフラッグフットボールの試合中の動画を撮影し、反省や次の試合の作戦を立てる際に活用した。自分たちのチームの動きや、他のチームでうまくいった動きを見ることで、より具体的な作戦の話し合いにつながった。
45	美山啓明	小学校	本校の体力向上の取組みについて	業間運動の実施(マラソンと大縄とび)	週1回(木曜日)のマラソンでは、マラソン大会に向けて全校で意識を高めることができた。大縄とびに関しても、縦割り班で協力して行う姿が多く見られた。ほとんどの班が50回近く記録を伸ばし、3分間で240回を超える班もあった。
46	越廼	小学校	本校の体力向上の取組みについて	マラソン大会、器械運動発表会、なわとび大会に向けて、児童が意欲を高め、目標を持てるような掲示物や学習カードを工夫し、児童の体力向上につなげた。	各大会において体育の授業や休み時間に積極的に練習し、運動に親しむことができた。器械運動や、なわとびでは多くの児童の技の向上が見られた。
47	清水西	小学校	本校の体力向上の取組みについて	「体づくりの運動遊び」や「体づくり運動」の時間に、時間走を取り入れたり、つま先立ちジャンプを取り入れたりすることで、筋持久力や瞬発力を鍛える。	体力テストの結果、男子はシャトルラン、反復横とび、50m走において、女子は握力において大きく平均を上回った。

48	清水東	小学校	本校の体力向上の取組みについて	今年度は体力テストの1ヶ月程前に3年生以上の学年を対象に体育の時間や休み時間に握力を計測し、今の数値を把握させた。準備運動でグーパー体操を取り入れたり、高学年では組合の研修で学んだ筋肉トレーニングを取り入れるなどして向上を図った。	休み時間に握力を測る児童やびスポに記録を打ち込む児童が増えた。どれだけ伸びたか数値化することで児童の動機づけになった。
49	清水南	小学校	本校の体力向上の取組みについて	業間運動を週2回(火、木)、持久力向上のために、4~10月には5分間走や全員リレー(雨天時はなわとびやエクササイズ)、11月~3月にはたてわり班で大縄とび(8の字)を行う。	体育の授業が好きと答えた児童が90%以上で、「できなかったことができるようになったとき」、「友達と交流したり、協力できたとき」に楽しみを感じる児童が多かった。
50	清水北	小学校	本校の体力向上の取組みについて	単元を精選して、ICTの活用、場の設定、教具や学習カードの工夫を行い、技能や記録の伸びを明確にして上達したことや伸びたことを実感させた。また、自分の課題がどこにあるのかを把握させやすくした。	「めあてをもって運動する」児童が92%だった。
51	杉坂	小学校	その他	外部指導者の積極的活用	アスリート事業やボール贈呈事業などを積極的に活用し、「タグラグビー」や「サッカー」などの単元で専門家から直接指導をもらう機会を設定した。世界のトップクラスで競技してきた選手からは、技術面のみならず「感謝」「仲間を大切にすること」など、これから社会で生きていく中で大切なことを教えていただいた。学んだことがその後の児童生徒の学校生活に活かされている。